

〈内藤とうがらしの歴史〉 A③



- ① 徳川家康の家臣である内藤清成が、ほうびとして馬がつかれるまで走った土地をもらう。
- ② もらった土地で内藤とうがらしを育てたが、鷹の爪のおいしさのブームに負け、絶滅してしまふ。
- ③ 成田さんが、新宿の歴史調査をしていると、かつて新宿ではとうがらしが栽培されていることを知り、これまでの調査結果をまとめ、展示会を行った。そして内藤家当主と会い、農家物資源研究所を訪ね、八房系で最古の種数粒を譲ってもらう。
- ④ 固定種が完成し、伝統野菜に認定された。





